南種子町地域公共交通総合連携計画

平成２１年３月

南 種 子 町

目　次

1．計画策定の背景と目的 1

2．本町の概況 2
(1) 人口等の状況 2
(2) 主要施設の状況 3
データは平成 20 年 4 月末現在 4
(3) 運転免許証の保有状況 5

3．地域交通の概況 6
3-1　地域公共交通の現況等 6
(1) 路線バスの現況 6
(2) 交通事業者の現状 7
3-2　スクールバスの運行状況 8
(1) 中学スクールバスの運行状況 8
(2) 高校スクールバスの運行状況 10
3-3　本町における生活交通の課題 11

4．地域公共交通総合連携計画 12
4-1　基本的な方針 12
4-2　地域公共交通総合連携計画の区域 12
4-3　計画の目標 13
4-4　事業の概要及び事業の実施主体 14
(1) 高校スクールバス運行事業 14
(2) 地域福祉バス運行事業 15
4-5　事業の計画期間 17
(1) 高校スクールバス運行事業 17
(2) 地域福祉バス運行事業 17
4-6　地域福祉バス運行事業推進に向けたその他の取り組み 18
4-7　実証運行等の検証 18

参考資料　検討経過 19
南種子町地域公共交通活性化再生協議会の開催状況 19

1．計画策定の背景と目的

本町は、鹿児島県種子島の南端に位置し、東西南の三方が海に面しており、総面積は 110.40ｋ㎡の町です。

人口は、昭和 35 年の 12,566 人をピークに年々減少し、平成 17 年までの 45 年間に 5,815 人（53.7%）の減少となっています。

近年は、人口減少に加え少子・高齢化も進行しており、15 歳未満比率 14.3%、65 歳以上比率 29.9%（平成 20 年 4 月末現在）となっており、今後も人口の減少及び少子・高齢化は進行していくものと思われます。

こうした中、本町の地域公共交通としては、路線バスがありますが、西之表港で発着する高速船の運航時刻にあわせた運行時刻の設定となっているため、住民の日常生活の足としては非常に不便なものとなっています。例えば、町内にある公立種子島病院に通院する場合、夕方まで帰りのバスがないため、病院診察が終った昼間にはバスで帰れないといった不便を生じています。

また、路線バスは、本町の中心部である上中地区および種子島宇宙センターまで運行していないため、本町の大部分の地域には路線バスが運行しておらず、これらの地域から町役場、温泉施設（河内温泉センター）等の町内主要施設への公共交通による移動はできない状況にあります。

このように本町の公共交通においては、高齢者等が町内で移動する際の交通手段の確保が大きな課題となっています。

また、平成 20 年 4 月から高等学校の統合再編により、隣接町（中種子町）に新設校（種子島中央高等学校）が開校されており、本町からの通学手段の確保が必要ですが、路線バスでは高校への通学手段としては時間帯があわず、利用に適さない現状です。

これまでの通学バスについては、町内バス（乗合）事業者（（有）大和）へ運行委託してきましたが、利用者負担が決して少ない額ではないため、個人負担を引き下げるための方策の検討が求められています。

こうした状況から、本町の高齢者や高校生等にとって、欠かすことのできない公共交通を整備し、効率的に運行することを目的に、南種子町公共交通総合連携計画を策定します。

2．本町の概況

(1) 人口等の状況

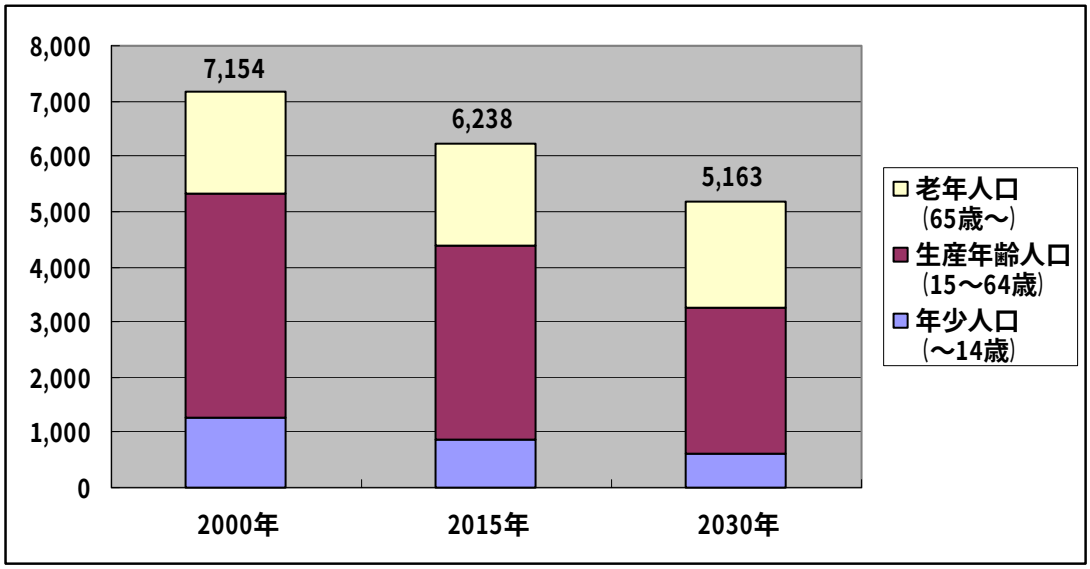
①人口および高齢化の状況

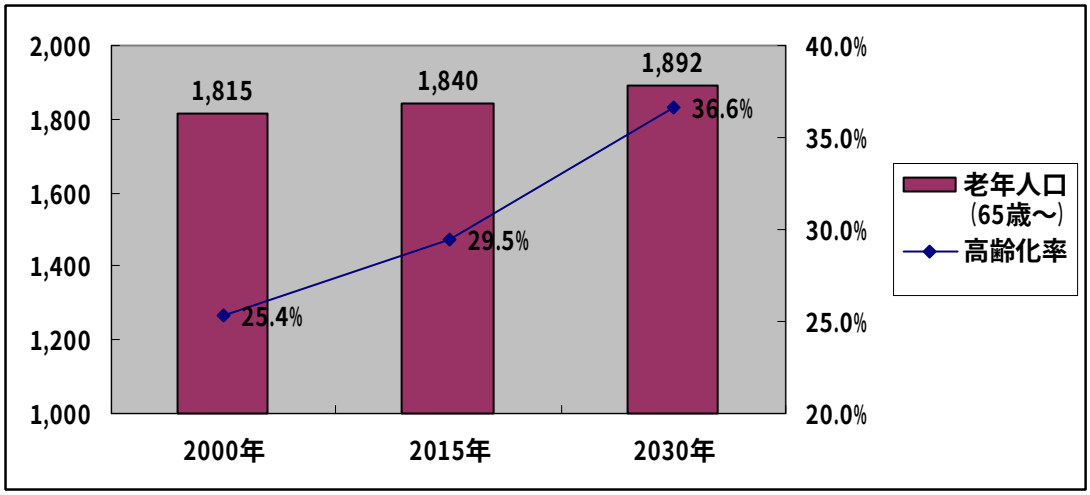
本町の人口は、平成 17 年国勢調査では、7,154 人となっています。

また、高齢者数は 1,815 人で、高齢化率は 25.4%となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、人口は大幅に減少していく中で、高齢者数は増加し続け、およそ 20 年後には 40%近い高齢化率に達するものと予想されています。

図表 2-1　本町の人口の推移（予測）





資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来人口推計（平成 15 年推計）」

②地区別の人口および高齢化の状況

本町の地区別の人口をみると、町の中心部である上中地区に、人口の 4 割以上が集中しています。

高齢者の状況をみると、上中地区の 19.6%、茎永地区の 29.7%を除くと、いずれの地区も、35%以上の非常に高い高齢化率となっており、周辺部の高齢化が進んでいます。

図表 2-2　各地区の人口および高齢化の状況

地区名	人口	高齢者数	高齢化率
平山地区	516 人	203 人	39.3%
茎永地区	555 人	165 人	29.7%
下中地区	255 人	99 人	38.8%
西之地区	941 人	407 人	43.3%
西海地区	265 人	101 人	38.1%
島間地区	727 人	260 人	35.8%
長谷地区	474 人	183 人	38.6%
上中地区	2,895 人	567 人	19.6%
南種子町	6,628 人	1,985 人	29.9%

資料：住民基本台帳、データは平成 20 年 4 月末現在

(2) 主要施設の状況

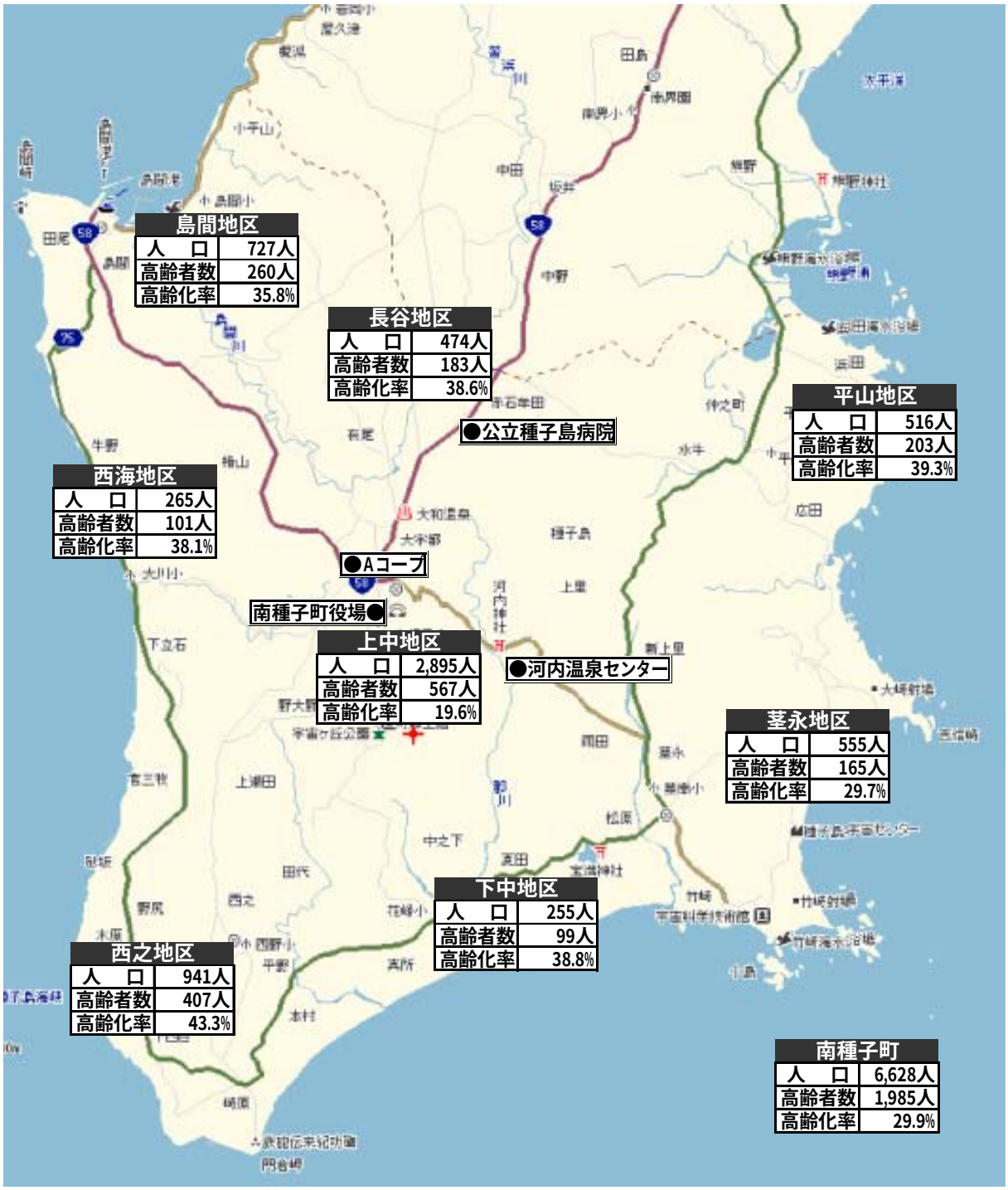
高齢者の外出の主な目的は、「通院」、「買い物」、「公共施設」であり、公共交通の整備にあたっては、これらの施設へのアクセスを考慮する必要があります。

これらの施設の中で、南種子町役場をはじめとする公共施設の多くは上中地区にあり、また商店街も同地区にあります。

一方、医療の中心である公立種子島病院や、健康増進・レジャーとして良く利用されている南種子町河内温泉センターは町の中心部からはややはずれた立地にあります。これらの施設には上中地区と結ぶ路線バスが通っていますが、他の地区からのアクセスは確保されていません。

こうしたことを踏まえると、公共交通の整備にあたっては、町内各地区から中心部への公共交通の整備が最も重要な課題となります。

図表 2-3　各地区の人口および公共施設等の立地状況



データは平成 20 年 4 月末現在

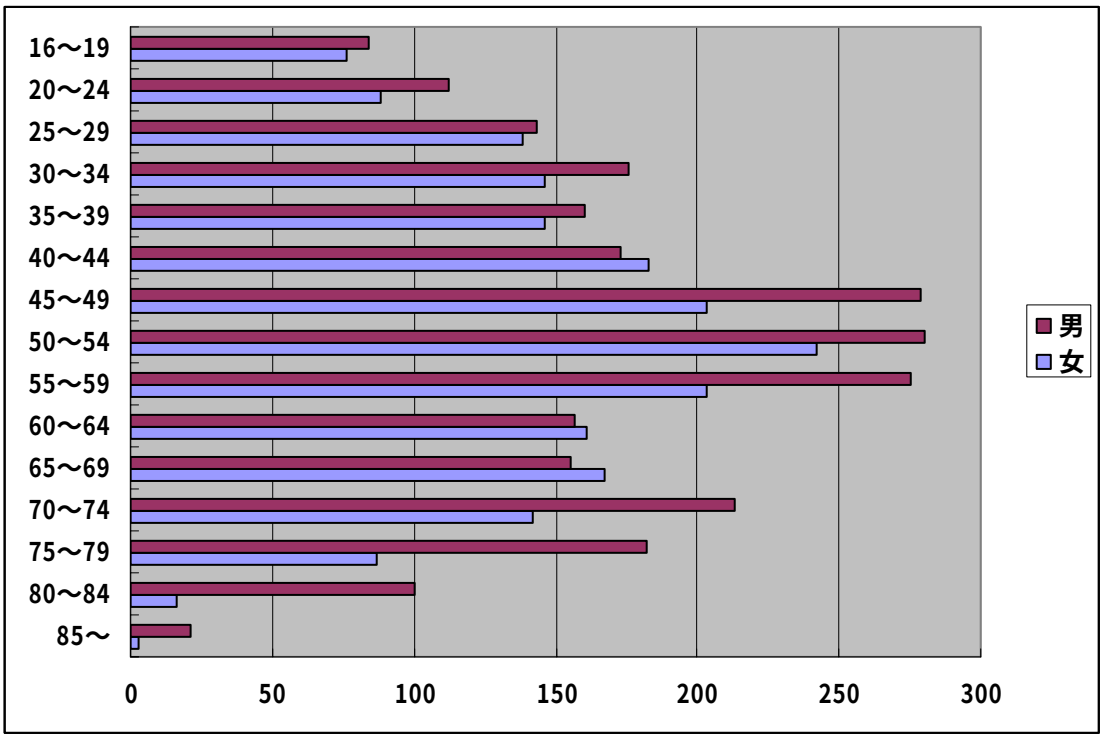
(3) 運転免許証の保有状況

本町の運転免許証の保有者数は、平成 20 年 5 月末現在で 4,511 人となっており、16 歳以上の町民の約 8 割が運転免許証を有していることとなります。

ただし、年齢別でみると、65 歳以降は保有率が低下する傾向にあり、80 歳をこえると約 5 割まで低下します。特に、女性の場合は、70 歳以降で保有率が 5 割以下となります。

このことから、生活交通を考える中では、高齢者、特に女性の高齢者が需要の中心であることがわかり、これらの層のニーズに対応した交通体系を構築していくことが必要となっています。

図表 2-4　本町の運転免許証の保有者数



資料：鹿児島県警、データは平成 20 年 5 月末現在

3．地域交通の概況

3-1　地域公共交通の現況等

(1) 路線バスの現況

本町の路線バス等は、種子島を縦断する幹線道路である国道 58 号に沿って運行しています。

種子島・屋久島交通㈱の路線バスが、西之表市から町中心部を経由して種子島宇宙センター方面に 1 系統（14 便）、種子島空港から町中心部を経由していわさきホテル方面に 1 系統（8 便）、㈲大和の路線バスが、西之表市から町中心部に 1 系統（16 便）、空港リムジンバスとして、種子島空港と町中心部の間を 1 系統（8 便）運行しています。

西之表港を経由する路線について、高速船およびカーフェリーとの接続を考慮した時間設定となっており、種子島・屋久島交通㈱の路線は高速船「トッピー」との接続を、㈲大和の路線は高速船「ロケット」およびカーフェリー「プリンセスわかさ」との接続を重視しています。

図表 3-1　路線バスの現況

運行主体	系統数	路線	便数	輸送人員	1 日当たり輸送人員	1 便当たり輸送人員
種子島・屋久島交通㈱	2 系統	2 路線	22 便	95,105 人	260.6 人	11.8 人
㈲大和	2 系統	2 路線	24 便	29,155 人	79.9 人	3.3 人

資料：各事業者調べ、データは平成 19 年度末現在

図表 3-2　路線バスの運行内容

起点	経由地	終点	便数	輸送人員	運行主体
美浜町	平鍋	宇宙センター	14 便	75,451 人	種子島・屋久島交通㈱
西之表	空港	いわさきホテル	8 便	19,654 人	種子島・屋久島交通㈱
南種子Ａコープ前	野間	新種子島高校前	16 便	24,381 人	㈲大和
南種子Ａコープ前	野間	空港	8 便	4,774 人	㈲大和

資料：各事業者調べ、データは平成 19 年度末現在

(2) 交通事業者の現状

① バス事業者

本町内でバス事業を実施している事業者は、種子島・屋久島交通㈱と㈲大和の 2 事業者です。

種子島・屋久島交通㈱は、本町内を通る路線バス及び（本町の委託を受けた）南種子中学校スクールバスを運行しています。一方、㈲大和は、路線バス及び（本町の委託を受けた）種子島高校スクールバスを運行しています。

図表 3-3　バス事業者の概要

事業者名	許可の種類	運行内容
種子島・屋久島交通㈱	乗合	乗合バス
㈲大和	乗合	乗合バス

資料：町企画課調べ、平成 19 年度末現在

② タクシー事業者

本町内でタクシー事業を実施しているのは、以下の 6 事業者です。

車両保有台数は、2～5 台で、いずれも小規模な事業者となっています。

図表 3-4　タクシー事業者の概要

事業者名	車両保有台数	ジャンボ	料金（初乗）
松葉タクシー	2 台	－	530 円
市丸タクシー	3 台	1 台	530 円
島間タクシー	2 台	－	530 円
南種子タクシー	4 台	1 台	530 円
大和観光タクシー	3 台	1 台	530 円
林タクシー	5 台	1 台	530 円

資料：町企画課調べ、平成 19 年度末現在

3-2　スクールバスの運行状況

(1) 中学スクールバスの運行状況

① 運行および利用状況

本町では、南種子中学校への統合に伴い、町内のほとんどの集落から南種子中学校へ通学するために、4 系統で運行しています。便数は、朝が 1 便、夕方が 2 便となっています。

対象者は、基本的には中学生ですが、地域住民に限って一般客の混乗も認めています。

図表 3-5　スクールバスの運行状況

起点	経由地	終点	利用者数	系統距離
雨田	下中	南種子中学校	29,220 人	16.8 km
西之	砂坂		27,950 人	15.2 km
大川	島間		26,280 人	22.8 km
浜田	公立病院		24,850 人	17.7 km
合計	－		108,300 人	－

資料：事業者調べ、データは平成 19 年度末現在

② 委託状況

中学スクールバスは、民間バス事業者（種子島・屋久島交通㈱）に運行を委託しています。

スクールバスの運行経費（運行委託費）は年額で約 2,310 万円となっています。

スクールバスは 4 系統 1 日 3 便運行していることから、1 便当たりの経費を試算すると、1,925,000 円となります。

また、これを利用者数で除して利用者 1 人 1 回当たりの運行経費を試算すると 213 円となります。

図表 3-6　中学スクールバスの運行経費の状況

運行経費	系統・便数	1 便あたり経費	延べ利用者数	1 人あたり経費
23,100,000 円	4 系統 3 便	1,925,000 円	108,300 人	213 円

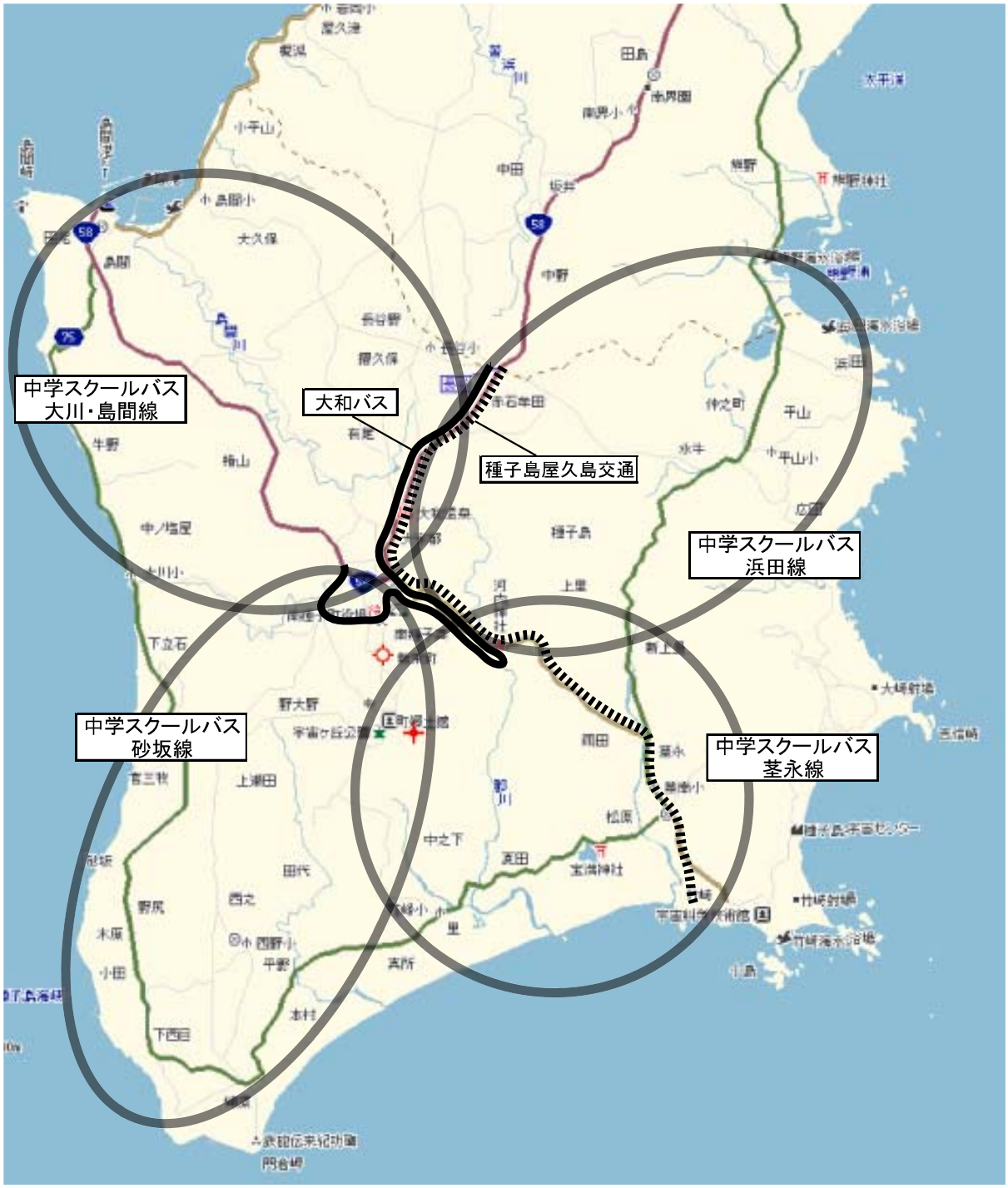
資料：町企画課、事業者調べ、データは平成 19 年度末現在

③ 混乗の状況

地域住民に限り、スクールバスへの一般住民の混乗が認められています。

利用状況の統計はありませんが、過去に事業者が実施した定点調査では、利用者全体の 0.3%程度と推測され、これに基づくと年間約 300 人が利用していると推計されます。

図表 3-7　路線バスおよび中学スクールバスの運行地域



(2) 高校スクールバスの運行状況

① 現状

鹿児島県の公立高等学校の再編・見直しにより、種子島中央高校が、中種子高校と南種子高校を合併する形で、2008 年 4 月に開校しており、中種子高校と南種子高校は、それぞれ 2010 年 3 月に閉校する予定となっています。

現在、種子島中央高校に通学する高校 1 年生の通学に供するため、民間バス事業者（㈲大和）に運行を委託しており、1 台を使って朝 2 便、夕方 2 便を運行しています。

運行経費（運行委託費）は、年間約 700 万円となっており、その内訳は県補助金が 1/3、町の補助金が 1/3、利用者の負担金が 1/3 です。

利用者は 50 名で月額 3,800 円を負担しています。

② 今後の見込み

南種子高校が閉校した後は、種子島中央高校への通学者が増えると見込まれ、100 名程度がバスで通学することが見込まれます。

このため、平成 21 年度以降は、スクールバスを 2 台体制にする必要があると見込まれています。

3-3　本町における生活交通の課題

本町の現況および地域生活交通の概況を踏まえると、今後の生活交通の維持・確保に向けた課題は次の点です。

① 交通空白地域・不便地域への対応

本町で路線バスが運行している地域は、町の中心部および南東部の一部地域に限られており、交通空白地域・不便地域が非常に多くなっています。

こうした地域の解消に向けて、中学校スクールバスへ混乗できるようにしていますが、年間約 300 人の利用しかおらず、有効に機能しているとは言い難い状況です。

このため、交通空白地域・不便地域の解消に向け、新たな生活交通の仕組みを検討することが必要となっています。

② 交通弱者である高齢者の増加への対応

高齢者、特に女性の高齢者では運転免許証を保有していない町民が多いです。

一方で、本町では高齢化が進み、今後とも高齢化率の上昇ならびに高齢者数の増加が見込まれています。

特に、町の周辺部の地区は、交通空白地域・不便地域が多く、すでに高齢化率が 40%前後になっている地区も珍しくありません。

このため、高齢者が安心して、気軽に外出できるための生活交通の仕組みの検討が必要となっています。

③ 町内の交通資源の有効活用

本町では、中学スクールバスへの混乗を行ってはいますが、スクールバスは使用していない時間帯が多く、十分には利用できていない状況です。

また、タクシー事業者が 6 事業者あるものの、通常の業務にとどまっており、いわゆる生活交通手段としては活用を図れていません。

上記のような課題を抱える中で、こうした交通資源の効果的な活用を図っていくことが必要となっています。

4．地域公共交通総合連携計画

4-1　基本的な方針

本町の人口や生活交通等の現状を踏まえ、今後の生活交通体系の構築に向けた基本方針を以下の通り掲げます。

①高齢者の通院等や高校生の通学など、住民生活に欠かせない公共交通については、生活の基礎的インフラとしてきちんと確保します。

②町の周辺部と中心部を結ぶ公共交通を確保することにより、町内のどこに住んでいても不便さを感じず、安心して住み続けられるまちづくりを進めます。

③フェリーや飛行機、路線バス等の幹線交通との連携を十分に図り、各地区から町外への移動の際にも公共交通機関で行ける体制づくりを進めます。

4-2　地域公共交通総合連携計画の区域

計画の区域は、南種子町全域とします。

4-3　計画の目標

本計画の目標は次の通りとします。

①　地域福祉バスを導入することにより、交通空白・交通不便地域の解消を図り、高齢者等が公共交通機関を利用して町内移動ができるようにします。

【数値目標】　1 日平均利用者数　40 人／日（延べ利用者数　10,000 人／年）

②　高校スクールバスを運行し、高校生が安全に、安心して通学できる環境を確保します。

【数値目標】　利用者数　80 人～90 人

③　地域福祉バスと既存路線バスとの連携を図り、町外へ移動しやすい交通体系を構築し、路線バスの利用者数の増加を図ります。

4-4　事業の概要及び事業の実施主体

(1) 高校スクールバス運行事業

① 事業内容

高校生が安全・安心して通学できる環境を確保するために、大型バス 2 台を購入し、県立種子島中央高校へのスクールバスを運行します。

ア．運行ルート

運行ルートは、上中地区と種子島中央高校を結ぶルートとします。

上中地区の乗降場所については、停留所を設けますが、利用者の居住地等を勘案して決定します。

イ．運行本数

運行本数は、毎日 4 便（朝 2 便、夕 2 便）運行することとします。

運行時刻は、高校側と協議し決定します。

ウ．負担金（利用料金）

運行経費の負担金は、県、町、利用者の三者がそれぞれ 1/3 ずつを負担することとし、毎年見直しを行います。

② 実施主体

南種子町

(2) 地域福祉バス運行事業

① 事業内容

高齢者等の通院や買い物等の生活の利便性向上を図るために、購入した大型バス 2 台を活用し、高校スクールバスに利用しない時間帯に、町内各地区と町中心部の公共施設等を結ぶ地域福祉バスを運行します。

ア．運行ルート

運行ルートは、町内を 4 つの地区に分け、それぞれの地区と上中地区周辺を結ぶルートとします。

上中地区周辺の乗降場所については、役場、公立種子島病院、河内温泉センター等の公共施設を中心とします。

また、各地区内での乗降については、基本的には停留所を設けますが、フリー乗降も考慮し、利用者の利便性を高めます。

イ．運行本数

運行本数は、各ルートで平日のみ 1 往復ずつ運行することとします。

また、運行時刻は、高校スクールバスに利用しない時間帯に運行することとし、各地区から上中地区へは午前中、上中地区から各地区へは昼前後に運行することとします。

なお、高校の行事等の都合により日中の利用が困難な場合は、運休することとします。

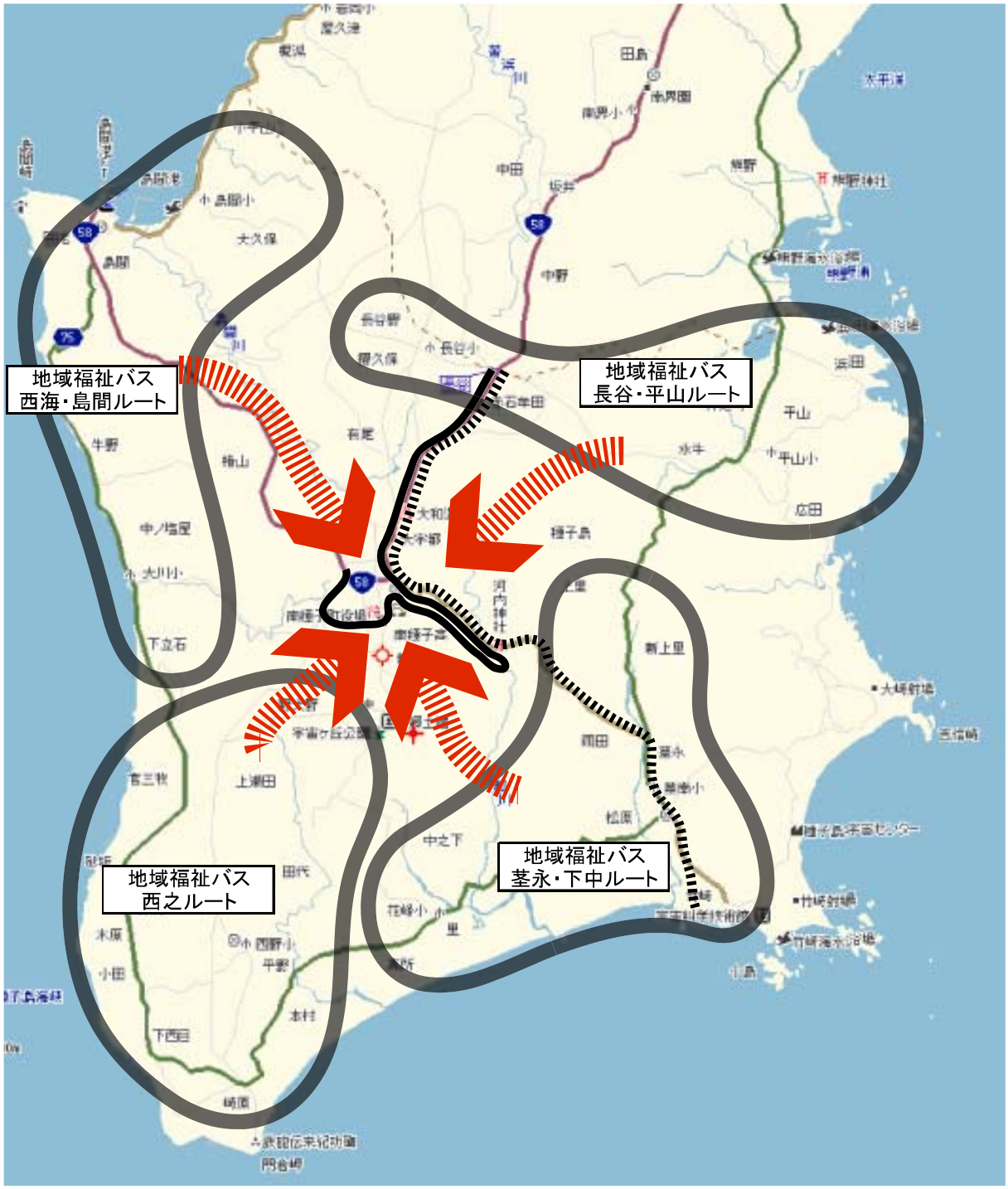
図表 4-1　地域福祉バスの運行内容

路線	運行区域	運行日	便数
西海・島間ルート	西海・島間地区～上中地区（公立病院等を含む）	月～金	2 便／日
西之ルート	西之地区～上中地区公立病院等を含む）	月～金	2 便／日
茎永・下中ルート	茎永・下中地区～上中地区公立病院等を含む）	月～金	2 便／日
長谷・平山ルート	長谷・平山地区～上中地区公立病院等を含む）	月～金	2 便／日

② 実施主体

南種子町

図表 4-2　地域福祉バスの運行地域



4-5　事業の計画期間

(1) 高校スクールバス運行事業

計画期間

計画期間は、平成 21 年度～平成 30 年度の 10 年間とします。

なお、利用者ニーズ等を勘案し、随時、運行体制等の見直し・検討を行います。

(2) 地域福祉バス運行事業

計画期間

計画期間は、平成 21 年度～平成 30 年度の 10 年間とします。

なお、平成 21 年度～平成 23 年度については、実証運行として実施し、利用状況等を精査し、運行内容の見直し等を行います。

4-6　地域福祉バス運行事業推進に向けたその他の取り組み

① 利用促進への取り組み

老人クラブ等を通じて、高齢者等への説明会や PR を十分に行い、地域福祉バスの利用促進を図ります。

また、高校スクールバスとの兼ね合いから、月ごとに運行日・運行時刻等の変更が必要なことから、地域福祉バス運行スケジュール表を毎月作成し、配布します。

（実施主体）　南種子町
（計画期間）　平成 21 年度～平成 23 年度

② バスマップの作成および停留所の設置

バスマップを作成するとともに、地域福祉バスの停留所を設置します。

停留所の設置にあたっては、観光のイメージアップにつなげるために、「宇宙のまち南種子町」をイメージできるものを作成します。

また、実証運行を実施するなかでバスマップや停留所の設置について、利用者の意見を聞きながら見直し・検証を行います。

（実施主体）　南種子町
（計画期間）　平成 21 年度～平成 23 年度

③ 待合所機能の充実

病院や温泉センター等、主な公共施設を中心に、待合所としての機能を整備するなど、高齢者等が利用しやすい環境づくりを進めます。同時に、商店街等と協力し、まちなかの待合所としての機能を整備するようにします。

（実施主体）　南種子町
（計画期間）　平成 21 年度～平成 23 年度

4-7　実証運行等の検証

高校スクールバス及び地域福祉バスの実証運行を実施するなかで、町民・利用者に対するアンケートを実施するとともに、運行ルートや運行本数・利用料金等について、実証運行の検証を行い、必要な見直し等を行います。

参考資料　　検討経過

南種子町地域公共交通活性化再生協議会の開催状況

① 第 1 回協議会

■開催日

平成 20 年 3 月 7 日（金）

■会　場

南種子町研修センター2 階東会議室

■内　容

・事業概要の説明

・協議会の設立

・規約、予算等の承認

② 第 2 回協議会

■開催日

平成 20 年 7 月 18 日（金）

■会　場

南種子町研修センター2 階東会議室

■内　容

・調査の中間報告

　・本町の公共交通等の現状と課題について

　・本町で導入可能な公共交通の手段について

　・他自治体の事例について

　・コミュニティバス・乗合タクシー導入のシミュレーション結果について

③ 第 3 回協議会

■開催日

平成 20 年 8 月 27 日（水）

■会　場

南種子町研修センター2 階東会議室

■内　容

・調査の最終報告

　・高校スクールバスの運行シミュレーションについて

　・南種子町公共交通総合連携計画（案）について

・今後の取り組みについて

　・パブリックコメントについて

④ 第 4 回協議会

■開催日

平成 21 年 3 月 6 日（金）

■会　場

南種子町研修センター1 階東会議室

■内　容

・連携計画書の最終確認

・南種子町公共交通総合連携計画（案）について

・協議会補正予算（案）について

・今後の取り組みについて

・平成 21 年度計画事業認定申請について